
夜桜鬼 ~ 2 爪の鬼 ~

翔楼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜桜鬼〜2爪の鬼〜

【Nコード】

N2038X

【作者名】

翔楼

【あらすじ】

（たぶん）最強な男装女主人公が幕末を駆ける！！
新選組と出会ってから、彼女の運命が変わりつつある…
…そんなシリアスぶっ飛ばし、毎日元気にいたずら中！！（被害者Hさん）

「とっし〜！何？また下手くそな発句考えてんの？？いい加減あき

らめたら？」

「うるせえ！！んなこと自分で分かってらあ！」

「ふーん……梅の花あー！！！！輪咲いてもー！！！！梅は梅えー！！！」

「時雨えー！！！！！！！！！！」

「あははははっ！！時雨ちゃん最高！」

「総司いー！！！！」

「副長、この発句の意味は何なのでしょう、桜木が言うには何やら深い意味があるようなのですが……」

「斎藤……」

「はっ」

「その件については……何も言うな」

「承知」

「は、一ちゃん……最高！！ププッ」

「だよね！ププッ」

「時雨えー！！総司いー！！！！」

「あ、ヤベツ……逃げるぜ……」

「うん……さしむかうー！！！！心は清きいー！！！！水鏡いー！！！！」

「あはははははっ！！！！！！！！！！」

「まちやがれえー！！！！！！！！！！」

シリアス少々ギャグ大量な新選組物語

はじまりはじまり

この作品は初心者の翔楼が書いています、誤字脱字やおかしな文法、意味のわからない表現があるかもしれないので注意してください

また、キャラが崩壊している可能性もあるので、「。。。くんはこんな人じゃない！！」と思われるかもしれませんが、無理な方はご遠慮ください

オリキャラ紹介

一桜木 時雨 さくらぎ しぐれ 18歳 女

「髪」 黒髪のサラサラロングヘアー（うらやましいぜ！！）を原田みたいにくったり、土方みたいにしたり、その日の気分で決める

「目」 濃い青、藍色系

「容姿」 本人無自覚の美人さん、顔は中性的だから男・女両方にモテる、どっちかっていうと昔っから男 装してるから女の方が多い。でも恨まれないからすごい

青系の着物に白色の袴の恰好が多い

「武器」 「朱雀」（鞘が赤みを帯びている）と「青龍」（鞘が青みを帯びている）の二刀流

本気以外はほとんど朱雀で、それぞれ左右の腰につけている

←ちょっとしたネタばれなので注意！

・千鶴とはご近所さんで時雨の兄貴が網道さんの弟子
・実は近藤さんと顔見知り、昔怪我したのを試衛館で介抱してくれた

・千景とも面識あり（かなり小さいときだけどっつすら覚えてる）

オリキャラ紹介（後書き）

～あきがき～

とまあ、こんな主人公です！

途中にもオリキャラが出てきますが、出てきたときのあきがきで紹介させていただきます！！

実は時雨ちゃん、キレると、関西弁炸裂&ドSモードオン！なんです…

土方さんもビビるほど…？

真相は実際にキレてからですね！（↑実はまだ決めてない）では、本編でお会いしましょう！！

H 2 3 . 1 0 . 1

出会い？

—文久3年12月・京

舞落ちる雪の中、まだ幼さが残っている子連れ、逃げ走っている青年の姿…

男1「待ちやがれ！小僧ども！！」

男2「逃げ足の速い小僧だ…まだ遠くへは行っちゃいねえ、探せ！！」

追いかけてきた男たちに見つからないように家の影に隠れ、横にいても聴きとれるかどうかギリギリの 声で互いの様子を確認する

『（疲れてないか？大丈夫？？）』

「（うん）」

『（じゃあ、今のうちに…）』

青年が立ち、男たちに気づかれないように周りを見渡そうとするが、叫び声によって遮られる

男1「ぎゃあああああつ！！！！」

男2「畜生、やりやがったな！」

『……っ！？』

その声と共に肉を斬る何とも言えない音と血の生臭い臭いが漂ってくる

男2「クソツ…何で死なねえ！！」

青年は震えている連れにこの声を聞かれないよう、斬りあいにな
っている場を見せないように後ろを向　かせ、耳をふさがせる

『（俺が戻るまでこのままで居ろよ？臭いだけは我慢してくれ…）

』
「（コクッ）」

連れが頷いたのを見て、斬りあいになっている方へ向かう

男2「た、助け……………うぎゃああああッ！！」

「ひやははははは」

この場に会ったのは、先ほどまで自分たちを追いかけてきた男た
ちの無残な死体と浅葱色の羽織を着　た、狂ったように笑う白髪
の男が3人…

『チッ…（浅葱色が…珍しいな…しかもお揃いときた、仲良しこ
よしの女かつてーの……………めんどくさいこ　とに巻き込まれたよ、う
ん）』

舌打ちが彼らに気づかれたらしく、焦点の合わない赤い目でこち
らを見る

『あーらら、バレちった』

この場にあわない明るい、いたずらがバレた時のような声色でつ
ぶやき、腰に差していた刀を抜き、か　まえる

「ひひっ……………はははははは」

叫びながらこっちへ向かってくる一人の攻撃をよけ、すぐに終わらせようと思い、刀を心臓に突き刺す

二人目が、倒れた一人目を避け斬りかかってくる。二人目も同じように突き刺し、倒す

最後の一人を倒そうと後ろを向いた瞬間、後ろから心臓を突き刺した刀が男の胸から出た

『なっ！！』

「あゝあ、残念だなあ……斎藤君、こんな時に限って仕事早いよね」

「俺は務めを果たすべく動いたまでだ」

倒れたヤツの後ろには倒した三人と同じ浅葱色の羽織を着た二人一人はまるで化け物のような奴らを倒したかったのか？と思う言い方であらわれた、ニコニコと笑っている男

もう一人は最後の一人を殺した、無表情の白い襟巻のようなものを巻いた男

『（もつとめんどくさいの来たよ！！もつめんどくさいの嫌なんですけどー……）』

「何か言った？」

『イエ、別二？』

どうやら、笑っている方は地獄耳らしい……厄介な！！

『じゃあ自分はこれで……』

「待て」

『……何ス力？あ、敵打ちは拒否しますんで、それじゃあ！』

「あっ！待ちなよ！！」

後ろから聞こえる声を無視して、つれのいる方へ走りだす

『千鶴っ！！！』

「時雨君！！どうしたの？」

『説明は後！とりあえず撒かないと……っ！』

連れ…千鶴の手をとり、走ろうとしたとき自分の首筋に刀を向けられ立ち止まる

「いいか、逃げるなよ…背を向ければ、斬る」

出会い？（後書き）

- - - - -
- - - - -
- - - - -

くあとがきく

こんにちは、翔楼です！！

夜桜鬼く2爪の鬼くの第1話が出来た！！！！

ものすごい駄文ですが、よろしく願いします！！
では、第二話でお会いしましょう！！

←主人公と翔楼のつぶやき…

（ども、主人公の一桜木 時雨 さくらぎ しぐれ です。
よろすく）

（時雨うち！！ちゃんとまじめに…）

（（無視）ところでさー、第1話ギャグ少ないよね。あれだけ紹介
の所でギャグ満載！！って書いてんのに意味ないじゃん、ちゃんと
書けよ）

（し、仕方ないんだよ！！第1話だよ？原作だってあんなにシリ
アスなのに…ギャグにできないんだよ！！）

（言い訳無用！！）

（はい、ごめんなさい…）

（作者弱っ！！）

（まあ、こんな翔楼ですが「夜桜鬼く2爪の鬼く」をよろしく願
いします！！）

(作者への苦情や感想も募集してまーす)

(ビクッ!!) …お手柔らかにお願いします…)

H23.10.3(改)

出会い？

「いいか、逃げるなよ…背を向ければ、斬る」

そう言い、現れた眉間にしわを思いっきりよせている、これまたお揃いの羽織を着ている

『え？いやに決まってるじゃないですか』

「てめえ、おちよくってんのか！」

『おちよくってねえよ！』

だいたい知ってんのか？意味わかんねえ化け物みたいなやつ倒したのに、今度は化け物と同じ羽織着てるやつから刀向けられるわ…意味わかんねえんだよ！！なんですか？？6人そろってお揃い着てよ、お前ら全員女かよ！！

つーかもう疲れたわ、俺

「そんなこと俺が知るか！」

『いや、絶対知ってるだろ。仲良し6人組がケンカしたのか？どうなんだ？ん？？』

「ちよ、時雨君！！…って、あれ？時雨君の着物ってところどころ赤かったっけ？」

『あー、それはあの化け物と戦つてるときについた…』

「時、雨君…？もしかして、これ、時雨君の……」

『いや、違うよ！！違うからね？！！』

千鶴は昔から俺がケンカして帰るとまず……失神した
なぜかは知らないけど……失神してた
まあ、今は大丈夫か（↑）2・3年前だし

「ここでしたか、副長……あ」

「何で急に走るのさ、探すの大変だったんだよ？どうしてくれるのさ」

『しらねえよ、なんで来るのさ仲良し6人組その4、その5』

「何それ、仲良し6人組」って」

『あんたらの事だろ？おんなじ羽織着て……仲良しにしか見えねえよ、若干3名性格イカれてるけど……』

あ、間違えた4名……嘘です、すいません』

4名つてところを地獄耳の人を向いて言ったら感づかれてしまったらしく、にらまれた……怖かった……

「はあ……こいつ等は屯所に連れて帰る」

「あれ？始末しなくていいんですか？」

「処遇は帰ってから決める」

「副長の意見に同意です、長くとどまれば他の人間に目撃されてしまいます」

『おーい！！無視して俺たちの行動決めてんじゃねえ！！だいたいい、付いて行くとも言って……』

ドサツ

『え……？千鶴ツ……！？』

音がした方向に向くと、千鶴が失神していた

まだ完全に治ってなかったか……やっぱ2・3年は短すぎたか？？

『（ま、真剣のまえでよく頑張ったな……千鶴）』

そう呟き、千鶴をおんぶして立ち上がる

『よし、どこ行くかはよくわかんねえけど千鶴と俺を休ませてくれるんだったら言ってやってもいいけど?』

「何この子、すぐく上から目線なんだけど…ついでに、永遠に休みたい?」

『いえ、結構です(笑)』

「てめえ、状況分かってんのか?」

『別に?興味ないだけです』

「はあ…行くぞ」

無表情の仲良し6人組のその5に二の腕をつかまれながらどっかへ向かう(↑)

出会い？（後書き）

ゝあとがきゝ

どうも、翔楼です

祝！初感想！！

感想を書いて下さったアクア様！ありがとうございます^^

（お前の文才がないから感想とか。見る人が少ないんだよ！アクア様に感謝しろ！！つか、「見てくださってありがとうございます」って、土下座してこい）

（ごめんよ、時雨っち！こんなのが生みの親で…）

（まったくだ、文才のある人がよかったなー）

（そこは「そんなことないぜ」って言うてくれたらいいのに…）

（んなもん言う暇があるならさっさと続きかけ）

（…はい……（涙））

（では、また次回をお楽しみに）

（感想待ってます…グスツ…）

おまけ←

無表情さんに二の腕をつかまれていて、多少顔が近い時雨っち

（うつわー、近くから見たらものすごい美人さん…）

（何だ？）

（そんなに僕って美人？？美人は一君でしょ）

（何でもありません、っ！か。地獄耳には聞いてねえし）

（ひどいなあ、地獄耳は土方さんだって）

（総司！）

（土方って、前の眉間にしわがよってる人か？）

（うん）

（てめえら！聞こえてんだよ！！）

（副長、お気持ちは分かりますが抑えてください）

（本当だ！！）

H 2 3 ・ 1 0 ・ 3

どちら様???

- 翌日・朝

『……………』

小鳥のさえずりで目が覚めて、気分爽快　なんてことは俺にはない
なんせ俺は完徹、つまり一睡もしていない状態だ

ここは屯所とかいう建物の一室

昨日、浅葱色の仲良し集団に連れられて（仲良し6人組を解散させちゃった、俺…）この部屋に、腕と足を　縄でグルッグル巻きにされて放置だ、なんでだよー！！！！（俺の愛刀の朱雀と青龍、千鶴の小太刀まで　奪われて…畜生…！）

グルッグル巻きにされてもぐっすり寝れる図太さは俺にはない、もっと繊細なんだよ！！優しく扱え　！！

『千鶴は……まら…まだ寝てるな』

……噛んだことは何も触れない方向でオネガイシマス

まあ千鶴は旅で疲れが出てたし、一度にいろんなことが起きたから寝てるのも無理ないけど……

うらやましいぜ！！

『このまま放置、なーんてことはないよな？

……いや、あるか…？』

あの仲良し…あれ？何人目だっけ？？まあいいや。とりあえず、あのニッコリ笑う笑顔がものすごく　怖い？何というか腹黒に見える人なら分かってても無視するだろう（これを確信犯という）

半分悪口を考えながら、ぼけーっとしていると千鶴がもぞもぞと動いている

「（ここは…？）」

『あ、千鶴くおはよう』

俺もう暇で暇で…死んじやうと思ったよ（いろんな意味で）』

「？う、うん…あれ？私の小太刀が…」

『あー、昨日に変な仲良しさんたちに会ったの覚えてる？』

「うん」

『ここは、その人たちの本部みたいなところで、一晚泊してもらおうと思っただけ、この状況』

どう思いますか！！？』

「え？？えーっと……………」

『無理して考えなくてもいいよ？』

「分かった^^」

か、可愛いじゃないかー！！！！惚れてまうやろー！！！！！！俺の思いは常に君に一方通行さ

「目が覚めたかい？？」

アホみたいなことを考えていると優しそうなおじさんが部屋に入ってきた

『覚めるどころか、寝れませーん』

「すまんなあ…そんな扱いで…今縄を緩めるから少し待ってくれるかい？」

『あ、お願いしまーす、ところであなたは？？』

「私は井上源三郎、ちなみにここは新選組の屯所だ」

新選組……壬生浪、か

人斬り集団とか言われて京の人からは迷惑がられてたな…（俺調べ）

「ちょっと来てくれるかい?？」

どちら様??? (後書き)

ゝあ트가きゝ

どうも、翔楼です

どうでしょうか第三話、おもしろかったかどうか正直不安です(汗)

みてくれた方は感想などをよろしくお願いします><

(お前の駄文を見てくれる人がいるかねえ)

(居るって!!.....多分)

(どうだか)

(し、時雨っちのバアカー!!!!!!グスツ)

(泣くなよ!!.....元々めんどくせえ性格なのに余計にめんどくさくなるだろ!!!)

(ヒドッ!ここはお世辞でも「泣くなよ、お前が泣くと俺もかなしい」い「ちょ、時雨っち!タンマ タンマ!!!!!!」)

(俺には異国語はつうじねえ、よ!!!)

(だから、刀を振り回すなあ!!!!!!.....チーン)

(えーっと...作者死にかけですが、感想でたぶん復活します感想、よろしくお願いします)

(ガクッ.....)

どちら様???

所変わってここは何やら会議的なことが行われている(らしい)
広間のまえ

俺たちは何でここに連れてこられたんだ…(でも、昨日の三人組
よりもものすごく優しくった、ありが　とう井上さん!)

まあ、ここにずっと立つてゐるわけにはいかなからこの部屋に入
らないといけないんだけど…空気重くな　いですか??

初めて寺子屋に入ったときに、先に通つてゐる同年代の子供に自己
紹介するじゃん?その新人生の緊張みた　いな気分だ(できればこ
んな気分は味わいたくない)

『しつれーしまーす』

「しつれいします…」

突っ立つても何も始まらないから仕方なく部屋に入る、仕方な
く!　↑はい!ここ強調してね、大切　です!!

「おはよう昨日はよく眠れた?」

「あなたは…」

『…(無視無視、無視が一番!)]

「…みたいだね畳の跡がついてるよ」

そう言つて自分の頬を指さす魔王(ニコニコ笑つてゐるやつ)
正直に言つていいですか??

『畳の跡なんかついてないから大丈夫だぜ?千鶴』

「えっ／＼／」

「…コイツの言うとおり、からかわれているだけだ跡など付いていない」

「……っ／＼／＼」

「あ、ばれちゃった」などと、ニコニコ笑いながら言う魔王に腹が立ちました。

いつかコイツのものがすくなく鼻をへし折りたいなと俺は思いました。↑ 作文!!?」

「で、そいつらが目撃者？ちっちゃいし細っこいなあ…まだガキじゃん」

『お前が言うか？ちびっこ風情が!』

「お前がガキとか言うなよ、平助」

「だな、お前もこいつ等も似たようなもんだろっがよ」

お！ちびっこことエロスと筋肉の三人組!!

エロスさんと筋肉さんはいい人だ!!ちびっこは人をみる目がないね

「うるさいなあ！おっさん二人とチビはだまってなよ」

「なんだと!!」

「よさんか三人とも!!君も!」

あっちゃー

豪快そうな人に怒られた…

ちびっここのせいだ…↑

「俺は新選組局長の近藤勇だ」

さっきの豪快そうな人が自己紹介した

って、局長ってここのお偉いさんじゃね??俺たちヤバくね??

「こちらの山南君が総長でその隣にいるトシ…いや、土方君が副長を務めて…」

「…近藤さん何でいろいろ教えてやってんだよ」

「そうか…」

そう言われて局長さんは目で見ていても分かるほどショボーンとなっていたが気を取り直して話を元に 戻した

「…では、本題に入ろう

改めて昨晚の話を聞かせてくれるか？」

どちら様??? (後書き)

ゝあとがきゝ

どうもこんにちは！翔楼です！！
今日は久々に部活がありまして…（翔楼の入っている部活は週2のペースであります（笑）

といつても毎回世間話をするだけなんです、今日は最近結果が返ってきたテストの話をしてまして…

（お前の点数が悪かったつー不幸を公開するだけだろ？
読者様皆分かってるから、お前がアホでバカなことぐらい）

（ですよゝって、酷い！！酷いよ時雨っち！！）

（俺は事実を述べたまでです）

（…いいもん、別に…）

（翔楼がブルーモードになってしまったんで、あとがきを終わりたいと思います）

（……今日も見てくださって…ありがとうございますう…）

（涙拭けよ、きったねえな……では、また次回お会いしましょう！）

H 2 3 . 1 0 . 5

どちら様???

「…はい」

そう言つて立ち上がる、仲良し…えーっと、4だっけ?5だっけ??まあいいや、白い襟巻を巻いてるという特徴がある美人さんだ
「昨夜、京市中を巡回中に隊士たちが不定浪士らと遭遇。斬りあいになった後、浪士らを斬り伏せましたが、その折「失敗」した様子を目撃されています」

「はい、しつもん」

俺ら何も見てないのに何でこんなことになつてるんですかー」

「私たちは何も見てません!」

淡々と昨日の事を言う美人さんにさっそく質問と反論をする俺らあれだよ、ウソついてるとか言うなよ!殺されそうだからあ!!

「あれ?総司の話ではお前らが隊士どもを助けてくれたつて話だったか…」

そう言いだす筋肉と、それを聞いてニヤリと笑う腹黒さん

「(お前か、大魔王!!…って何?あの人掃除さん??変な名前だなあ…」

あ、やべえ…今日があつたら笑っちゃうぞ!!?)」

「ち、違います!」

私たちがその浪士たちから逃げていたところを新選組の人たちが助けてくれたといいますか…」

『千鶴っ！！』

「じゃあ隊士どもが浪士を殺しているところはしっかり見ちまったわけだな」

「あっ……！」

『千鶴……』

「ごめんね時雨君、私どうしても気になって……」

あの時嫌な予感がしたから見るなって言ったのに……
過ぎたことだからしかたねえけどさ……

「殺しちゃいましょうよ、口封じをするならそれが一番じゃないですか」

『あん？ふざけんじゃねえぞ！』

「もういい、連れて行け……その口の悪いやつは置いてけ」

『なっ！』

「お願いします！話を聞いてください！死ぬわけにはいかないんです！私たちにはまだやらなきゃいけないことが……！」

美人さんに連れて行かれそうになったところで千鶴が本音を漏らすそれを聞いた仲良しその6の人（この人は最後だったから覚えてる）にとどめられる

「――なら、命をかけるほどの理由があるんなら洗いざらい話してみろ」

「時雨君……」

『いいよ、じゃあ俺が話すから』

「ううん、ここはわたしが……」

そう言って、京に来るまでを説明した千鶴

内容について書かないのは作者の文才がないからです（ごめんな

さい)

「父の行方は一向に知れず途方に暮れていたところを襲われた、
というわけです」

「そうか…父上を捜しにはるばる江戸から…」

大変だったなあ…」

「なるほどな」

年端もいかねえ小娘が男に身をやつして居たのはそういう理由か」

「何…小娘？」

あ、千鶴ばれちゃってるよ

仕方ないよなあ、千鶴すつごく可愛いから…

「お前…女か」

どちら様???（後書き）

～あとがき～

（更新がかなり遅れて申し訳ありません!!!!!!）

（何やってたんだよ！バカ翔楼が）

（いやあ、ちよつと風邪をこじらせまして…）

（バカは風邪をひかないのに…）

（ちよ、それひどくない??）

（（無視）理由はともかく、遅れてしまつてバカ翔楼にかわつてあやまります、コイツがすいませんでしたあ!!!!）

（いや、もう私あやまつてるつて……ぎゃあー！頭をつかんで下に揺さぶらないでえー！！脳味噌があ!!!!）

（じゃあ、今回はこのへんで…さよーならあー）

（ぎゃーっ!!!!!!）

どちら様???

『え、気づくの遅くない??

こんなに可愛い子なのに気付かないんだー…うーわ……』

「ちよっ、時雨ちゃん!!」

「……ちゃん？」

「どういう事だ」

ヤバいやばい!!

千鶴がこぼした俺の「ちゃん付け」に魔王と副長(?)が…

『ちよ、千鶴！

いくら俺の名前が女つぽいからってちゃん付けしないでよ…

江戸の時にも言っただろ!』

「ご、ごめん!」

この発言は半分冗談で半分本当

女つぽいのが本当で、江戸を発つときに行ったのが嘘

千鶴が一瞬疑問符を浮かべてる気がしたけど……まあ、大丈夫か

「あ、申し遅れました

私、雪村千鶴ゆきむらちづると言います」

『桜木時雨さくぎときぐれです

女つぽい名前には触れないでくださいーい、生まれてからずっと気にしてるんで』

「嘘だろ…?」

え、何が??

まさか、俺が何も悩まないと思っているのか!?

酷いやつだな!!

「この近藤勇、一生の不覚!!
まさか君が女子だったとは!!」

「どう見ても女の子じゃないですか」

なんだ…、千鶴の事が…

ビビったぜ

―局長さん、ごめんなさい

俺も女なんです…―

局長さんに心の中で謝る…別に意味はないけど
でも、魔王は一言多い!!千鶴が悲しんでるだろ!

(自分が言ったことは忘れている都合のいい頭を持つ時雨)

「あなたの父上は江戸で蘭方医をしていると言いましたね」

「山南君?」

「…もしかして、雪村綱道氏ですか?」

「父をご存じなんですか!」

…なんか嫌な雰囲気になってきた
眼鏡の山南(笑)のせいだな!!

「綱道氏の娘さんだと…?」

お前、どこまで知ってる!?

「どこまでって…」

「とぼけるな!綱道氏のことだ!」

『女相手に怒鳴んなよ!!』

…あースンマセン、つい…』

ついキレちゃいました

だってよ！あの、副長さんのせいで千鶴がビクツってなったんだよ！

よし、俺のく抹殺しちゃうかも！？帳>に登録してやる！！

……あの人の名前って……何？？

「どういう事です？まさか父に何かあったんですか？」

『……………』

「一か月ほど前、綱道氏の詰めていた屋敷が焼け落ちて以来、行方が判らなくなっている」

「え…！」

『…………マジかよ…………』

結局、京に来たのは無駄足…か

「遺体は見つかってねえ…ただ、何らかの事件に巻き込まれた可能性はある

綱道氏の行方は俺たちも追っているところだ…

昨夜の件を忘れるなら父親が見つかるまでの間お前を保護してやる」

どちら様??? (後書き)

～あとがき～

皆さま、ごめんなさい!!!!!!

パソコンを修理に出して一週間以上更新が遅れてしまいま
した...><

(時雨) せめてものお詫びに、翔楼が崖から転落しまーす

ごめんなさい!!!!!!だから許してえ!

もうこうならないように大切に扱いますからあ!!!

(時雨) まあ、どうでもいいけど

どうでもいいの!???

では、今回はこのあたりで!

(時雨) さよーならー

H23・10・18

どちら様???

え??

ちょっと待って…

さっきの副長さんのセリフをもう一回!!

昨夜の件を忘れるなら父親が見つかるまでの間お前を保護してやる

はい、もう少し短く!!

お前を保護してやる

もう少し!!

お前を

……皆さん、おわかりだろうか

あるうことかあの副長さんは 千鶴だけを保護する 事を決定させました!!

俺は無視かこの野郎―!

「心配するな、君の父上は我々が必ず見つけ出してみせる!」

「あ、ありがとうございます!」

局長さんの言葉に嬉しそうに返事をする千鶴

いーなあー、俺も千鶴のおまけでいいから保護してくんないかな

あー↑

「殺されずに済んでよかったね、とりあえずはだけど」
「はい……………」

「すいませーん、この人物騒なんですけどー」
「あはっ」

はい、魔王の登場でーす

魔王から、物騒な雰囲気と言葉が駄々漏れでーす
つか、あはっ って何??! なんか怖いんですけど

「斎藤、もとの部屋に連れて行け」
「御意」

『よっしゃー! 正座からの解放』

「いや、お前はまだ残れ」

『何っ!!? 解放されない、だと…!』

もう足が悲鳴上げてんですけど!!

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ!!

(お前の頭の方がヤバイ by 翔楼)

「じゃあ、先に行ってるね」
『おう!』

部屋を出ていくときにくれた笑顔で俺はもう元気が回復!!

…………… 足、イテエ ↑

あれ? 俺元気回復したのになー?

美人さんが戻ってきたところで尋問再開

「どこから来た」

『えーつとですねえー』

生まれ…はわかんねえけど育ちは江戸！！よって江戸っ子でーす
！！

……………ウソデス、ゴメンナサイ』

副長さんからの質問に真面目に答えたら新選組の人たちからの視線が痛かった

特に美人さんと副長さんの視線が痛い…人殺せるんじゃない？

「なぜ京に来た」

『千鶴を守るため

ほら、千鶴を守るための俺！みたいな？』

美人さんの質問に真面目に答えたらまた視線が痛かった
やっぱり美人さんと副長さん怖い…

誰かお面持つてきてくれないかなー？できるだけ大きな、顔…体
全体が隠れるぐらいの！！

「失敗したやつらを見て思ったことはない？」

『失敗したやつらつて 羅刹 の事か？』

「……………っ！！……………」

あらやだ、皆さん瞳孔がひらいてますよー

閉じて閉じて！せっかくきれいなんだから！↑

…そっか！魔王が質問したからかぁー…最強だな…↑

「貴様、何故知っている！」

どちら様??? (後書き)

ゝあとがきゝ

いやー、なかなか進まないねえー
自分が書くのが遅いだけだけどさ

(時雨) 話がそれすぎなんだっつーの
ふつーでいいじゃん

私はギャグしか書けない!!

(時雨) 死ね

酷い!!!!!!

(時雨) じゃあ、今回はこれで!

さようならあー

.....グスッ

H 2 3 . 1 0 . 2 0

どちら様???

『何故って言われても…知ってるもんは知ってるんだっつーの』

「はぶらかすなよ、じゃねえと痛い目見るぜ?」

『マジか……』

えーっですな、簡単に言うとな綱道さんの弟子みたいな?手伝いみたいな?人だから』

エロスさんのはったりになわざと乗る

答えは…まあ、これまた半分本当で半分嘘

「そうか…」

え!?!理解すんの!?!?

『あのー、俺ってどうなる感じですか?』

「羅刹の事を知っているのなら、あの小娘と同じ扱いはできねえな」

『つまり?』

「綱道さんが見つかっても解放するわけにはいかない、ってこと」

副長さんの言葉に魔王が補足する

『んなこと言っただってよ、お前から情報を得て分かったわけではねえから』

結局は意味はないと思うけど?』

「お前が羅刹の事を話さないという証拠がない」

…そんな話したって何も面白くねえっつーの
誰が話すか！誰が！

「話す気がなくとも、口を滑らせる可能性があるという事だ」

『あれ、なんで会話が成り立ってるわけ？？』

まさか…声に出してた…？』

「ああ」

何事もなかったかのように淡々と話す美人さん

マジかあー！！！！！！！！

桜木時雨、一秒の不覚！

「短っ！一秒って短いって！！」

『…また声に出したか…』

「ププッ、やっぱり君って面白いね」

…ちびっこに突っ込まれた

…マジかあー↑

そして魔王…黙ってるよ！！！！

『まあ、話を元に戻しますけど…』

俺は身長お前より高いんだよ！！…なのに入ってきた瞬間チビって
何だよ！！？

俺から見たらお前の方がチビ！！』

「どこまで遡ってんだ！！！！」

とりあえず、しばらくは雪村と同じように過ごしてもらおう

『えー、働かざる者食うべからず』

俺を隊士として扱ってくれませんかねえ？』

「ダメだ」

俺の意見を突っぱねる副長さんこと鬼！

（え？反対？ 鬼 こと 副長さん ？そんなことはないさ）

「いいじゃないですか土方さん

この子、剣の腕は確かですから」

何っ！？魔王からの助言、だっ…！

コイツ、助言多くね？と思ったことは内緒だ

「副長、その点については俺も同感です

今の様子を見ている限り、おとなしく部屋にいることはできない
と思われます

そのために人員を割くよりかは働かせた方がよろしいかと

剣の腕だけは確かです」

『…何それ、ほめられてんの？貶されてんの？』

「褒めているつもりだが／貶してるに決まってるよ、ね？一君」

「総司…」

『え？結局どっち？？』

「……分かった、許可しよう」

どちら様??? (後書き)

ゝあとがきゝ

…いまだに幹部の名前が出てきていないむなしさ…

(時雨) 仕方ないだろ、お前が遅いんだからよ

頑張ってるんだよ！それでも！！

(時雨) ストックもなくなったんだろ？

…死ぬ気でやれ

…頑張りますう…

(時雨) では、また次回お会いしましょう！

さようならゝ！

H 2 3 . 1 0 . 2 1

どちら様???

そう言つてにつこりと笑う局長さん

「いいだろう？人手が足りないのは事実だしな
桜木君もいいか？すまんなあ、客人なのに…」

『大丈夫ですよ』

むしろ感謝です!!』

「まあ、近藤さんが言うんなら…」

よし、（しぶしぶだけど）鬼さん（副長さん）も許可したし！
これでしばらくは大丈夫…だよな？

……そう言えば、どっかで局長さんを見た気がするんだよな…
…気のせいかな？

たしか、多摩のあたりに散歩行ったら絡まれてた女の子がいて
助けるために絡んでる男たち（五人ぐらいで絡んでた）の方行つ
て、ケンカ売ったら

なぜかそばで見てた人も参加してきて…

そうそう！それで怪我したのを、わざわざ自分が経営している道
場まで連れて行つて

介抱してくれたんだよなあ

…聞いてみよう!!

『局長さんつて、多摩のあたりに道場開いてました？』

「ああ、開いていたが…

なぜ君が？」

『昔、ケンカしてたバカを介抱しませんでした？

そのバカ、俺なんですよ』

「そうだったのか!!」

いやあ、懐かしいな、もう二年になるのか」

あれだね、運命ってやつだよ!!

(翔楼はデステニーって言ってたけどよ、意味何?)

世間は狭いなあー

「改めてよろしくな!桜木君」

『はい!!』

一気に局長さんとの親密度が上がった!!

そんなバカなこと考えてる間に会議終了

足!!よく我慢したな!!

…あれ?会議終了しましたよー?

もとの部屋に帰りません??

何で局長さんと山南さん(総長らしい)が自分たちの部屋に帰っ

たのに俺たち待機??

何??今から自己紹介だぜ!イエーイ!!的なことが起こるわけ

??

…んなこと翔楼の頭ん中だけで済ませろよ、おれは足が痛いんだ!!

癒しの千鶴に笑顔もらわないと治らないかも↑

…でも、このまま何も話さなかったら??

ずっと正座?!?無理無理無理!!おれ死んじやう!

何か話題を!話題をくださーい!!!!

……あれ?俺、この人らの本名知らなくね??

なんか翔楼の考えに乗ることになるが、この際仕方ねえ!!

聞け!!

『すいませーん！』

…どちら様ですか？？』

「「「「「「「「「「は？」

『いや、だから…』

どちら様ですかー？？』

どちら様??? (後書き)

ゝあとがきゝ

どうも！翔楼です

更新が少し遅れてしまつて、ごめんなさい！！

(時雨) お前の脳味噌干物ですかー？

水分みんな飛んでカッスカスになったのか？ああん？？

ご、ごめんなさあーい！！

(時雨) やつと幹部の名前が出るのかと思えば…

次回かよ！！いい加減にしろ！

返す言葉もございません…

(時雨) これから、翔楼を殺るんで

今回はこれで！！

さようならゝ

って、ギヤアアあー！！！！

H23・10・25

どちら様???

…まだ通じてないな…
まあいいや、普通で↑

『お名前どうぞ！
はい、鬼さんから！！』
「……誰が鬼だあ？」
『あつ、ヤベっ』

ヤバイヤバイヤバイ…

<鬼さんから！>ってとこ強調しちゃったぜ

そもそもく鬼さん>ってのが通じないのかと思えば以外に通じて
いるからすごい

……なんで？

「あはははははははっ！土方さん、言われてますよー！！」

「やかましいー！！」

『え？何？？

本当にお名前鬼さん？？

かわいそうに…自己紹介した瞬間……散々…わら…われて…きた、
でしょう……

ププッ……こ、この人のように』

そう言つて魔王を指さす
そこにはもちろん大爆笑 の魔王
鬼さんの額に青筋が浮かんでくる

「笑いが隠し切れてねえ!!」

んでもって総司い!!いつまで笑ってただ!!」

「まあまあ、落ちつけよ」

『そうですねー、そんなにピリピリしてると

将来禿げますよ?』

「あははははははっ——!!!!」

「総司い——!!」

エロスさんの発言で一瞬収まろうとしていたがそこに待ったをか
けたのが…オ・レ

…何?最初と性格違うつて??知らないよ〜ん、苦情なら翔楼ま
で!!

笑いすぎて涙目になっている魔王がこちらを向く

「やっぱり君って面白いね〜

改めて、沖田総司です」

「…斎藤一だ」

ふむふむ、沖田掃除さん↑と斎藤一さん…っと

「俺は原田左之助、よろしくな」

「俺は永倉新八だ!よろしく」

エロスさんが原田左之助さん、筋肉さんが永倉新八さん…っと

「藤堂平助だ!!よろしくな」

チビ助…っと

「……………」

あれー？副長の鬼さん、略して鬼副長さん？
お名前は？？

「……土方歳三だ」

よし、坊歳三…っ↑

『改めてよろすくー』

沖田さん、斎藤さん、原田さん、永倉さん、チビ助、坊さん！！』

「ちよつ、まで！！！！！！」

『なんだね？チビ助氏、坊氏』

「何で俺がチビ助なんだ！！？／俺は坊じゃねえ、土方だ！！

！！」

『えー？だつてよー』

まずお前はチビだしー…鬼さんの名字はく土>とく方>、足した
ら…？』

「坊、だな」

俺の質問に律義に答えてくれる原田さん
いい人だ…！

「人の名前を勝手に変えるんじゃないねえ！！」

「そうだそうだ！！」

『しかたないなあー』

よろすくー、土方さん…おチビちゃん』

「何で俺だけえー？？？？」

おチビちゃんの叫びによって、またうとうとしていた千鶴がびっ
くりして眠気も飛んでったとさ

（時雨君、大丈夫かなあ……何話してるんだろう……
あんな大声出してると、心配だなあ……）

どちら様??? (後書き)

～あとがき～

どうも～翔楼です！

なんやかんやで更新が遅いですが、そのせいか今回は時雨っちが暴走しましたー

(時雨) お前の文才の結果だろ？

どうしようもねえよ、お前の頭ん中が毎日暴走してんだからよ

酷いっ!!

……でもこれが時雨っちなんだよねえ～

次回は(多分)時雨っちの所属を決めます！

(土方) ……頭が痛い…

あり？どつたの？副長

寝不足??二日酔い??

副長は下戸だからなあ～…ぜったい二日酔い!!

(時雨) マジ??

メモメモ…っ

（土方）お前らあ…！！

えーっと、トシがいろいろヤバいんで今回はこれで！

（時雨）さいならあゝ

（土方）おう、またな

…って、まちやがれ！！

H 2 3 ・ 1 0 ・ 2 9

番外編　く祝！一カ月！く

（翔楼）…と、いうわけで
お祭りじゃーい！！！！

（平助）祭りだ祭りだぁー！！

（時雨）しつもん

何で俺らがこんな目に…

（千鶴）まあまあ、時雨君…

（翔楼）決まっているではないか！
今日で私、翔楼が誕生…？して一カ月なのだよ！！

（時雨）ウゼー…

（翔楼）ひ、ひどい…！

（土方）酷いのはお前だよ！

（沖田）そうだよなぁ

連載なのに一カ月近く経たないと中心人物の名前が出てこないっ
て…

どういう事…？（黒笑顔）

（翔楼）え…、いやー、その……………あははっ

（新八）笑い事じゃねえって！

見ろよ、土方さん…やけ酒飲んでるぜ

（翔楼）マジ???!

写真に収めないと…！

（斎藤）何だ、それは…？

（翔楼）これはねえ、カメラだよん

今から土方君の酔っ払い姿を写真におさめに行くんだっ！

（土方）ほあ？

それは誰の事だ？俺あこの通りピンピンしてるが??ああん？

（翔楼）いや、その…あの

（千鶴）お、沖田さんですっ！！！！

（時雨）そーそー、あの魔王

鬼さんの発句がどうか、梅の花が何とか言っていましたけどー？
豊玉さん

（土方）総司いー！！！！

てめえ、なんでそれを持ってやがる！！

（沖田）あれ？もう来ちゃいました??

おっかしいなあー、まだ発声練習してないのに

（土方）発声練習って何だよ！

（沖田）梅の花ーっ！一輪咲いてもー！梅は梅ーっ！！！！

（時雨）梅の花——！——輪咲いても——！梅は梅——！

(土方)だ――！――！――！――！――！――！――！――！――！――！

!!

（翔楼）あり？何やってんの原田君＆その他

（原田）ん？お前も飲むか？？

（翔楼）あーお酒……

まだ未成年なんで、えんりよしま

（新八）遠慮なんかすんなよ
ほれほれ！！

（平助）やっぱ高い酒はうめえな
今日は翔楼のおごりなんだろ？

（翔楼）え、ちよ……

（斎藤）桜木、お前は飲まないのか？

（時雨）さいとーちゃんは？

（斎藤）俺はいい

……お前の刀を見せてもらってもいいか？

（時雨）ん？いいいぜ

なに？趣味？？

（斎藤） ああ

（翔楼） はーーーーい！！！！注目っ！！
全員だまるー！！

読者の皆様に感謝の気持ちを一人一言！まず時雨から！！

（時雨） えー、まあこんな人たちと毎日過ごしています…？
駄文すぎて分かんないところが多いかもしれませんが、意見・苦
情は翔楼まで

（千鶴） 雪村です！

皆さま、どうだったでしょうか…？これからも時雨君の活躍を見
てくださいっ！

（沖田） どうもー^^

僕の出番がこれから！っぶり増えるからみんな見てね
……増えなかったら…ね？

（翔楼） ……………っ…（汗）

（斎藤） 斎藤だ…

出番は翔楼の気分によつて変わるが、見てやってほしい
何か困ったことがあったら気軽に相談してくれ

（原田） ま、俺も大体斎藤と似たような感じだな
よろしく頼む！

あ、翔楼が俺の事陰で歩く18禁だとかエロ音痴だとか言っても
無視してくれ

（平助）ちわーっす

…俺、絶対時雨追い越すから！！（身長）
みんな見ててくれよな！

（新八）……どうせおれは、左之のおまけなんだよな…
さっきだって翔楼が「その他」ってよー…

…出番、あんのか…？

（翔楼）……………（汗）

（土方）桜木と翔楼に文句あるやつは遠慮なく！俺の所か斎藤まで持ってこい

分かるまでみっちり説教してやるからな

（翔楼・時雨）…（汗）

（斎藤）質問などは感想に書いてくれ、よろしく頼む
キヤラを出してほしい時には感想に希望を書いておいてくれ

（翔楼）え、ちょ…

何で決まってるのぉー？？？！？

（土方）仕方ないだろう、お前への苦情がこんなに…

（翔楼）それ絶対偽造！！

ところどころ豊玉って書いてあるしー！！

（時雨）あー

翔楼がうるさくなるんで、また次回お会いしましょう！

(千鶴)では、さようなら、
^ ^

H
2
3
・
1
1
・
1

番外編　～ここでやつとキャラ紹介～

新選組

局長 こんどう いさみ
近藤 勇

・我らが新選組の局長、みんなのお父さんみたいな人
実は時雨とは昔に面識がある（ケンカして怪我した時雨を
介抱した）

最近働きづめのトシ（下記参照）の事が心配…

副長 ひじかた としぞう
土方 歳三

・新選組の鬼の副長と恐れられる、なんだかんだで面倒見の
良いひと

新選組一の苦勞人

沖田（下記参照）に自作の発句を書いた「豊玉発句集」を
とられてからかわれること多々

総長 さんなん けいすけ
山南 敬助

・新撰組の総長、時々怪しげな薬をつくって幹部たちを困ら
せる

外面や表面は優しいが、何を考えているかわからない
結構恐れられている存在…？

一番組組長 沖田 おきた 総司 そうじ

・新選組の一番組組長、新選組の中でも1・2を争う剣の天才
よく言われる言葉が「腹黒」「魔王」（ほとんど時雨）
土方の発句集をとってはからかうのが趣味

二番組組長 ながくら 永倉 しんぱち 新八

・島原に行っても女にモテないことを悩んでいる二番組組長
自慢の筋肉は剣術一筋で鍛えたとか：

原田（下記参照）と平助（下記参照）とつるんでいる、時
雨命名「3馬鹿」

三番組組長 さいとう 斎藤 はじめ 一

・無表情の美人な三番組組長
刀の手入れが趣味、毎朝の訓練を忘れない真面目さん
ふとした時に笑う顔がすごくきれい

六番組組長 いのうえ 井上 げんざぶろう 源三郎

・いつもにこにこと笑っているお父さんの存在
時雨と縁側で日向ぼっこしながらお茶を飲むのが好き

八番組組長 とうぞう 藤堂 へいすけ 平助

・身長を気にしている年頃の男の子、それでも幹部
ネコ目の元気っ子！口が軽いのが短所

原田（下記参照）と新八とでいつもつるんでいる、時雨命
名「3馬鹿」

十番組組長 原田 左之助はらだ さのすけ

・色気ムンムンのおにいさん、女の人にモテる十番組組長
おなかに昔切腹したあとが残っている（酔っぱらうとそれ
で腹踊りをはじめる）

新八と平助とでつるんでいる、時雨命名「3馬鹿」

雪村家

父 雪村 綱道ゆきむら づなみち

・千鶴（下記参照）の父、現在行方不明
江戸で診療所を開いていた
弟子の秋夜（下記参照）と共に上京

長女 雪村 千鶴ゆきむら ちづる

・ポニーテールがチャームポイントのとってもかわいい女の子
時雨の事を姉…？兄…？のように慕っている
時雨の事となると結構すごい、気迫が違う

桜木家

兄 桜木 秋夜さくらぎ あきや

・まだまだ出てこない時雨のおにいさん
綱道さんのお弟子さんみたいな人
ただいま行方不明（綱道さんと一緒にいた）

番外編 〽ここでやつとキャラ紹介〽（後書き）

「雪村家」を追加しました！

H
2
3
・
1
1
・
5

俺って何なわけ??

泣く子も黙る新選組の屯所…

そこに、人斬り集団と恐れられる人たちとは程遠い人物が2人
そのうちの一人、桜木時雨はまたまた幹部に囲まれていた…

「何べん言ったらわかるんだ！

お前の腕を確かめさせてもらう、その強さによって平隊士か幹部
並か

を決める」

『えー…めんどくせえー』

只今絶賛不機嫌中の時雨

仕方がないと言えば仕方がない、昨日は夜遅くまでなかなか寝れ
なくて

結局寝たのは朝方

しかも、ようやくぐつすり…と思っていたところにそのチビ助
が登場

布団を無理やりはぎとられて起こされた

大丈夫、根に持っていないからー全然気にしてないからー↑
まあ、絶対今度あいつが寝てるときに腹を蹴ってやる…！

そんな恨みを目力にこめて副長さんを睨む

…当然にらみ返されるが、威力が違う、威力が！

普通に怖え…！！

「いいじゃん、やろうよ

相手はもちろん僕で」

『すいませーん、何ですかこの人ー脅迫してきますー
断ったらぜってー殺されますー

ちなみに、俺はチビ助が良いです』

「何で?!」

欠かさず脅迫してくる魔王こと沖田君

いやー、怖いね

それに比べて…

『いいじゃん、お前はイジリ甲斐がありそうだし？

お分かり？、おチビちゃん』

「分かるか！」

『いいよ、どっちにせよただいじって遊んでただけだし
というわけで俺は寝る、おやすみ』

さんざん騒いだ拳句、その場で横になり寝る時雨

その姿を見て鬼副長さんが黙っているはずもなく…

「いい加減にしろっ!!」

『えー、知ってます？

俺昨日寝れなくてやっと寝たのが朝方なんっすよ

眠気が…ヤバい!!』

「きちんと寝ていないお前が悪い」

ぶーぶー、と文句を言ったら斎藤君にズバッと言われた

それはもちろんなんだけどさ、寝れないものは仕方ないんだよ

なんか景品のなものがないと燃えないしなあー

「…分かった

お前が幹部の誰かに勝ったら雪村と屯所の中を歩きまわっていい
ただし、幹部連中に言っただけからだ」

『…それ、本当っすか?』

いきなり、副長さんが俺にとってかなり嬉しいことを言った

「ああ、それぐらいしねえとお前は動かねえだろ

腕試しによつてお前の持ち場を決めなくちゃならねえ。

何しろ、景品があつた方が燃えるだろ？」

『おー、なんでだろ

土方さんと同じ思考してたわ、ヤバい、俺終わったわ』

「なんでそうなるんだよ！！」

『だってよ、俺と土方（鬼副長）さんって、8・9歳ちがつじやん？

俺が老けたとしか言いようがねえし……』

「お前：俺に失礼だとはおもわねえのか……？」

『いーえ、むしろ俺に失礼ですね

これからそんな考え方しないでください』

「お前がすんじゃねえー！！！！！！」

こうして、寒い冬の朝とそれとは裏腹の熱い戦いが始まった……

俺って何なわけ?? (後書き)

～あとがき～

どうも、翔楼です！

番外編が2回続いてからの本編ですが皆さんついていけてますか???

といつても、キャラ紹介とただの雑談なんですが…

(時雨) 本当は機能更新するはずだったのにデータが飛んだからつてくれたくせに何言ってんだよ

いっ、ごめんなさい!!

(時雨) で? もちろん俺が勝って、千鶴と屯所の中うろつろでき
るんだよな?

いやー、それはどうだろう…?

(時雨) まあいいや、ぜってー俺勝つしー
じゃあ皆さん、さよーならー

さようならー

H
2
3
·
1
1
·
4

俺って何なわけ???

『さつむー!!!』

結局、試合をすることになったわけだが（半分沖田君に脅された）
今は真冬です、俺普通の恰好！

何も朝にすることないじゃん…

なんか隊士に見られたらダメだー！とか言ってるけど
来てる人は来てるから意味ないんだよ

「うるさいなー、早く行くよ？」

『ほーい』

沖田君にせかされて道場に向かう

………え、隊士多くない??!

誰だよ、隊士居るから朝早くにやるうつったのは!!

（実は鬼副長）

しかも、隊長がほぼ勢ぞろいで新人の腕見るんだぜ？

おかしくね??

「ほら、木刀」

『ん

あ、後もう一本!』

差し出される木刀を受け取り、もうひとつ要求する

…設定を呼んでくれた人は分かるだろう、俺は二刀流だ!!
かけーだろー!

「へー、二刀流なんだ」

『おう！…獲物が俺の方が多いから何ならもう一人入るか？』

「言ってくれるじゃねえか…」

その余裕へし折ってやるよ」

あーらら、土方さんが怒ったー！！

なんか本人のり出してきそつな雰囲気…

「なら、俺が行こう」

『お、斎藤君かー

なんか怖そう…』

「鬼副長よりかはましでしょ

ね？土方さん」

「総司い！ちよつとは静かにしやがれ！」

『完璧に今一番うるさいのあなたですよ』

「うるせえ！」

土方さんが本当に真剣抜いて走ってきそつだからからかうのをあきらめた

いや、やっぱり怖いじゃん？

「じゃあ、俺が審判をしよう

それでいいかな？桜木君」

『全然大丈夫ですよ』

「…余裕だな」

『まーね

これが俺の取り柄だし』

会話だけならお気楽そうに見えるが、実際は道場の中央に沖田君と斎藤君が隣り合わせになり

その正面に俺が立っている

ちなみに練習中の隊士たちは道場の隅っこに座っている
かなり隅っこに！！（鬼副長のせいだ！絶対！）

「二刀流かー、見たの初めてかも」

「俺もだ」

『そんなに珍しいか？』

まあ、俺は力が足りない分、数で補ってるだけだけどな

「そんなもんだろう」

あれ？なんか緊迫した雰囲気なのに普通の会話してるぞ？

いいのか…？

まあいつか

『そう言えば斎藤君って左利きなんだよな』

「ああ、それがどうかしたか？」

『俺も何人かは同じ左利きを見てきたけど、みんな左差しだった
けど斎藤君は右差しだから』

ただ単に珍しいなーって』

「そうか…」

なんか、土方さんの目が痛いんでそろそろやりますか

「準備はいいか？」

局長さんの声でそれぞれ構える

俺は両手をブーッと下げたまま

「では……始めっ！！」

俺って何なわけ??? (後書き)

ゝあとがきゝ

いやー、最近陽が落ちるのが早くなってきましたねえゝ
どうも！翔楼です

（時雨）って、んなことどうでもいいから！さっさと更新しろよ
！！

はい……

（時雨）よろしい！
では、皆さんさようならゝ！

こゝ、更新頑張ります…！！

H 2 3 . 1 1 . 7

俺って何なわけ???

近藤さんの声が道場内でこだまするが、俺たちは一步も動かないで相手の様子を見ている

「あれ？動かないの？」

『下手に動いたら君たちに殺されそうなんでねー
一応二対一だし』

「そうするように言ったのはお前だ」

またまた普通のような会話だが、殺気が感じられる
まさに戦場

……やっぱこの二人はダメだろ……
なんか怖いし、つかやっぱ沖田君一人でよかったじゃん！！
仕方ない、か……

『でもま、このままはちよつとまずいか……
じゃあ、こつちから行きますよ！』と』

そう言い、一気に距離を縮めて攻撃しようとするが、相手は新選組の幹部

そう簡単にはいかない
チッ、避けられたか……やっぱ一筋縄じゃ無理だよなー

「うわ、早いねー
でも、これはどう？」

攻撃をかわされた跡にできる隙を狙い、それぞれ攻撃を繰り返す

てくる

ほんと、容赦ねえわ…やっぱりチビ助が良かったー！
すぐ終わりそうじゃん、アイツ

ってか、斎藤君って…居合…？

『あつぶねー、斎藤君って居合いあいなんだねー』

「ああ…だが」

「話す余裕なんてあるの？っ！！」

その言葉とともに、また攻撃を仕掛けられる

左から、右からと連続して木刀をふるってくる

さすがの俺もちよつとヤバいかも

息をつく暇さえない

『…っ！』

気がつくのと、俺の左手の木刀が斎藤君の攻撃によって宙に上がった

ヤバイヤバイヤバイヤバイ…！！

あ…好いこと思いついた！！

「これで、終りだ」

『さて、どうかな？？』

避けられて停止していた斎藤君の木刀を踏み台に中に入った木
刀をとる

よっしゃー！！成功

やっぱ俺って天才？（そんなことないです）

そして、沖田君と斎藤君の間に着地する

それに合わせて二人もいつでも木刀をふるえるように準備する

……一か八か、やってみるっきゃないか！

俺って何なわけ??? (後書き)

ゝあとがきゝ

どうも、翔楼です！

続きますねー、バトル

そもそも、おっきー(沖田君)とはーちゃん(斎藤君)と一緒に出したかっただけなんですよねー

(時雨) そんなお前の考えで、俺は二人と戦わなくちゃいけないのかよ!!

好いじゃん、勝てるんでしょ？

(時雨) そりゃそうにきまってんだろ！

それじゃあ、そういう事で

(時雨) そういう事ってどどういう事だよ

では、さようならゝ！

(時雨) 話聞け!!

H
2
3
(
2
0
1
1
(
1
1
・
1
1
(
ポ
ツ
キ
ー
の
日
(
笑
(

俺って何なわけ???

『これで終わりだっ!』

俺は両手に持った木刀を二人の首筋に添えるが、それと同時に斎藤君のが首筋、

沖田君のが腹に木刀が向けられている

「あーあ、引き分けかあ…

やっぱり君って強いね」

『いや、最後の方俺殺されそうだったんですけど。完璧に殺気出たたよな!?!』

「出したのは総司だ、俺ではない」

「言わなくてよかったのにー。ま、気づかれてたから意味ないか」

『オイ、謝罪は無いのかよ!』

「何で僕が君に謝らなくちゃいけないのさ、試合なんだから殺気出してもいいじゃん」

ブーブー言ってる沖田を無視して、鬼副長さんたちの方に行くいや、疲れたねえ…やっぱ二人って無理だわ、今度から一人にしよう…

『で、答えは出ましたかねえ、副長さん』

「……」

無反応って何?!なんか悪いことしたの俺??

待てよ……てか、俺何もしてねえし!

でもな…鬼副長って言っただしなあ…

「…認めてやる…」

『え?!自分が鬼副長つてことをですか?!』

いや、やっぱりそうか…』

「誰がそんなこと言っただよ!誰が!!」

お前を、新選組の隊士として扱う事をだ!」

『マジッすか!?!よっしゃーっ!?!!』

よかったよかった、これで外でる口実が…! (え、理由それなの?!)

「隊士たちが騒いでやがるな……」

斎藤

「はっ」

「そのバカをあいつの部屋に連れて行け」

「御意」

イジ
斎藤君が俺の方に近づいてくるのが見えたが、その前にチビ助を弄ることにした

『なあチビ助、お前つていくつだ?』

「だーから、俺はチビ助じゃないんだよ!」

『え…』

「何その顔、なんかイラッて来るんですけど」

そんな顔つてどんな顔だよ!悪かったな、もとからこんな顔だよ!とまあ、見事に怒ったチビ助をからかっていると斎藤君に呼ばれた

「…行くぞ」

『え？どこに？？』

「…雪村の所にだ」

『行きます！』

二つ返事で了解した俺は千鶴の待つ部屋の方へ…

だが、ここで一つ疑問

なんかさー、年が近いのにどうして名字？

別に名前でもいいのにさー…

『なあ』

「…どうした桜木」

『あー…その、呼び名なんだけどよ…』

時雨って言うてくれねえ？名字だとなんか肩こるんだよ…』

「……………」

『何で無言！？？』

「…お前、女だろう」

『……………え？』

俺って何なわけ??? (後書き)

ゝあとがきゝ

どうもこんにちわ！翔楼です！
更新が遅くなってしまつてごめんなさい…><
テスト期間でPCが…使用禁止に… (涙)

(時雨) で？その結果はどうなんだよ

…あのね、社会の範囲が丁度幕末でね、私好きだから絶対百点狙
うぞつて

頑張ったんだよ？…頑張ったんだけどね…グスツ、三角貿易間違
えたぁ!!!!!!

(時雨) 今のところ、そこぐらいか？

イエ、たっくさん残っておりますのよ……………はぁ…

(時雨) バカめ

ヒドッ!?

では、また次回お会いしましょう！

(時雨) さよ—ならあ—

H
2
3 . 1
1 . 2
7

番外編　祝！二カ月！！

というわけで、このサイト？も二カ月！

二か月やってのクオリティの低さ……なんか泣けてくる…

（時雨）大丈夫だつて

読者のみなさん気づいてるから、お前が馬鹿だつてこと

（土方）なかなか更新しないしな

名前が出てくるまで一カ月、さらに一カ月たった今でもまだ主人公の立場が決まっていなかった

何年かかるんだよ、完結まで

えーっと…に、二年…？

（沖田）後一年と10カ月？

かかりすぎでしょ、ノロノロしすぎじゃない？

ちょ、酷くない！？？

ちなみに言っておくが、私はSだから！いじられてばっかじゃ終わらないから！！

（時雨）それも無理だな、俺らにいじられるだけで終わる

（藤堂）だよな

…黙れよチビ助

（藤堂） なつ、俺お前より身長高いんだぞ！

……時雨とか一君とか……全員に負けてんじゃん

（斎藤） ……何故俺を見るなにゆえ

イエ、素敵な顔だな〜と……

（沖田） 一君はきれいな顔してるしね〜
君とは違つて

んなことぐらいわかつてますよーだ！！
……人間つてさ中身が大事だよね〜いくら顔はよくても、中身が
ブスだと……

あ、一君じゃないから！

（沖田） 何それ、それって僕のこと言ってるの？

ナニイツテンツスカー、ンナコトアルワケナイツスヨー
自意識過剰デスッテ

（沖田） ねえ、この子切っちゃっていい？

（原田） やめとけ総司！コイツ切っちゃったら俺たちの活躍が見
れねえじゃねえか

え、そつち！？

（斎藤） ……ああ

（時雨）そうだな〜、中途半端で終わったら……
困らな〜かね？だってさー、君たちは原作があるし、俺は別に傍観者が良いし

（土方）そうだなあ…

え、常識人が…あっちにつく、だとおー！
私、フルボッコ…

（時雨）とまあ、こないつつもいじられてる自称Sの翔楼ですが
よろしく願います

え、オカン？

（時雨）アン？なんか言ったかゴラァ

それではみなさん、今後とも翔楼をよろしく願いますっ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2038x/>

夜桜鬼～2爪の鬼～

2011年12月1日21時51分発行